

青年支部がつづいバスツアー

三重・南部

三重・南部地区の青年支部は、この間、継続してつづいを開いています。

志摩青年支部の2月のつづいにはある30代の女性が初めて参加。女性から「原発事故が起こった時、なぜ、政府の情報が正しく出されなかったのか」「もし共産党が政権についていたらどんな対応をしていましたか」などの質問がだされ、党員らが答えました。

青年党員は質問に答える中で、もっと知りたい、学びたいとつづいをまた開く意欲がわいています。

3月もつづいを開き、8名が参加。参加した青年たちが観光業で働いていることから、観光業の実態を話し合いました。

原発反対運動学ぶバスツアー
地区の青年後援会は4月1日、「芦浜原発バスツアー」を行い、30



人が参加しました。
南伊勢町の手塚町議の案内で渡し船に乗って、芦浜沖から原発建設予定地を見学しました。

その後、手塚議員や地元住民から、計画発表から白紙撤回に至る37年に及ぶたたかひを聞きました。推進派の嫌がらせのひどさに驚きながら、運動を続けてきた話に聞き入りました。

地元住民は「若い人に話を聞いてもらえてよかった。運動を受け継いでください」と話しました。

参加した青年は「三重に原発がないのは反対運動を続けた方のおかげ。そのなかで日本共産党の果たした役割がよく分かった」と話していました。

大飯原発再稼働に反対

愛知県委

福井県大飯原発の再稼働に反対するよう、党愛知県委員会は13日、愛知県の大村知事に要請を行いました。

河江明美衆院比例東海ブロック候補や県内の党小選挙区候補、もとむら伸子参院愛知選挙区候補が参加しました。

河江候補らは、愛知県が被害が想定される地元意識をもって、政府に大飯原発

飯原発の再稼働については、大村知事としては行動をおこしていない」とのべました。



の再稼働をしないよう要請することや、県が関西電力と実効性のある安全協定を締結することなどを求めました。

県の担当者は、「事故が起きた時は関西電力から報告がある関係にはなっていない」としつつ、「大

岐阜2区演説会 佐々木議員

佐々木憲昭議員は15日、岐阜県大垣市の党演説会に参加し、消費税増税に反対する党の躍進を訴えました。会場いっぱい約150人が参加し、発表されたばかりの高木光弘2区候補も訴えました。

佐々木議員への質疑も行われ、「日銀がお札を大量に印刷してインフレにすれば、経済がうまくいく」と主張する議員がいる。どう考えるか」「子ども子育て新システムで保育がどうなるか」「原発の再稼働問題や廃炉のための財源をどう考えるか」などの質問が寄せられ、佐々木議員が答えました。

日本共産党大演説会 弁士 志位和夫委員長

4月21日(土) 午後2時から 静岡・グランシップ

4月22日(日) 午後2時から 愛知・県体育館

佐々木憲昭議員、河江明美比例候補

各県小選挙区候補も参加